

令和6年2月29日

奈良保育学院

学院長 中室 雄俊 様

学校関係者評価委員会

委員長 大原 敏敬

学校関係者評価委員会報告

令和5年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づき実施した令和5年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 谷口 偉 (奈良市立幼稚園協会長、西大寺幼稚園長、光が丘幼稚園長)
- ② 辻村 泰聡 (極楽坊あすかこども園長)
- ③ 大原 敏敬 (奈良県専修学校各種学校連合会長、大原和服専門学園理事長)
- ④ 早田 由紀美 (奈良保育学院三友会長)
- ⑤ 齋藤 くるみ (奈良保育学院第27期卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回 委員会 令和5年 7月28日 (会場：白藤学園 奈良保育学院 自習室)
- 第2回 委員会 令和5年12月 5日 (会場：白藤学園 やわらぎホール及び附属幼稚園)
- 第3回 委員会 令和6年 2月29日 (会場：白藤学園 やわらぎホール)

3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

令和5年度 学校関係者評価報告書

I 重点目標について

○ 重点目標1について

重点目標	<p>1. 卒業学年全員の幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得並びに関係分野への就職</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学外実習の事前事後指導、進路及び学年担当教員による適時の学生への関わり、専任全教員の情報共有、様々な教育活動等を通して、学生の就職に関する意識の向上を図る。 ・ 幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得率100%と希望する関係分野への就職率100%を目指す。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年担当制をとり、実習担当・進路担当教員と連携しながら、学生一人一人への日常からの細やかな関わりを実施している。 ・ 教員間での情報共有を徹底し、学内外での教育活動を通して学生自身が就職に関する意識を向上できるように促している。 ・ 学生の就職指導の一環として、実習担当教員を中心に、学外実習や就職に向けて、履歴書や実習記録の書き方、エントリーシートの記載の仕方、面接練習等を通じて就職に向けた実践力を身に付けさせるための指導をしている。 ・ 今年度からは、1回生の早い段階から就職活動に向けての自己探求を行うために「就職に関する意識調査アンケート」を実施した。また、社会人にふさわしいスキルの向上を目指すために基本的なマナーや保育の基本用語を取得するためにテキストを活用したり就職活動に向けて履歴書の書き方指導を行ったりした。 ・ 2回生に対しては、一人一人の学生との面談を繰り返し行い、本人の希望や適性などについてきめ細かに相談に応じた。それぞれの専門分野で活躍しておられる外部講師を招聘し、将来への展望をもたせたり、厚生労働省から派遣された社労士を招いて「労働条件セミナー」を開催したりして具体的に就職への意識の向上を図った。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学先が多様化してきている。「高等教育の支援新制度」も始まり、専門学校への進学が減少し、4年制大学への進学者数が増加している。 ・ 「高校の普通科へ」志向が強まっている。早めに進路を決めたいけれども、リスクを感じ決められない。「可能性を残したい。」という気持ちも働くなど、社会（時代）の動きが逆になっている。 ・ 年々就職活動が早まっているように感じる。「受け入れ側」にとっては、早めに就職希望者と接触したいと考えている。 ・ 次年度は、就職指導の「早い動き」をしていくとよい。

○ 重点目標 2 について

<p>重点目標</p>	<p>2. 職業実践専門課程認定校として充実した教育活動を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践的な職業教育等を目的とした自らの教育活動、その他の学校運営について、社会のニーズ踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表し、学校として組織的・継続的な改善を図る。 学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会の開催とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域との連携協力や特色ある学校づくりを進めていく。
<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 評価研究機構が定めた評価基準と評価方法に基づき、保育学院としての自己評価を行い、自己評価報告書を作成する。 学校関係者評価委員会は、関係機関と連携し、自己評価の結果を基に学校関係者評価を実施・公表している。また、教育活動その他学校運営の改善に向けて実際の授業の様子を参観し、意見交換等も行った。(令和5年7月28日・12月5日・令和6年2月29日の年3回開催) 教育課程編成委員会は、関係機関と連携し、学内組織である各検討委員会の協議を基に教育課程に関わる事項について審議することにより、次年度の教育課程の編成について、見通しをもって改善に向けた協議を行うことができた。(令和5年6月19日・11月13日・令和6年2月26日の年3回開催)
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> タイムリーな改善も見られた。 積極的に委員会を開催している点は評価できる。 PDCA サイクルを回せていると思う。

○ 重点目標 3 について

<p>重点目標</p>	<p>3. 実践力の向上に向けた保育学院と系列幼稚園・保育園・こども園との連携推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く環境が変化する中で、保育ニーズは多様化、複雑化しており、豊かな人間性と実践力、応用力を身に付けた資質能力の高い学生の育成を目指す。 学園内に幼稚園、保育園、こども園といった機能の違う3つの園をもつ本学の特色を生かして、子どもに直接触れ合う中で学ぶ。
<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習や保育実習の期間だけでなく、学生がカリキュラムの中で計画的に園児と触れ合い、園の実践に深く学ぶことのできる機会をもつために、令和5年度より「保育基礎ゼミ」「保育専門ゼミ」を開講し実践的な保育技術等の習得及び向上を図った。 長期休業期間中や放課後には、系列各園の保育補助の業務への従事を希望する本学の学生に優先的に紹介し、実務経験や即戦力を身に付けることができるようにした。 学院行事や園行事等双方の情報を積極的に共有し、学生が、系列園

	<p>の運動会や生活発表会、夏まつりなどの行事の補助といったボランティア活動に積極的に関わることを通して、園児との直接的な関わり方を学んだり保育者の指導の様子を目の当たりにしたりすることで、学生は、主体的で意欲的に学びを深め実践力を身に付けることができた。</p>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・(系列の3園へ出向き実践力を身に付ける新しい取組について) 1年間様子を見ていて、よい取組だと感じた。今後も続けていっていただきたい。 ・「連携コーディネーターも組織化していく。」との説明があったが、学院と3園が連携していくのはよいことである。

○ 重点目標4について

重点目標	<p>4. ICTを活用した学生指導、授業展開の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭養成課程の科目では、「ICT機器の活用」が求められており、授業計画にICT機器の利用を取り入れ、ICT機器への習熟を図る。 ・学生管理システムを活用し、学修内容の把握など円滑な単位取得を目指す。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・演習科目では、ICT機器を使った授業を受講するだけでなく、活動記録、資料作成、発表などにパソコンやタブレットPC等のICT機器を積極的に活用していく内容の授業展開をしていった。 ・学園全体でも取組を進めている「保育ドキュメンテーション」を本学でも取り入れ、学生自身がタブレットPCを活用しながら「保育専門ゼミ」等で園に出向いた際に垣間見る園児の「遊びや生活の姿」を通して、その中での育ちや学びを写真やエピソードを添えて記録する方法(ドキュメンテーション)を身に付けた。このことにより、学生は園児の「これまでの育ち」や「学び」の軌跡や変化を可視化しながら保育の実践を学んだり学院生同士で確認し合ったりすることができた。 ・学生管理システム「BLEND」を使い、学生・教員・保護者が履修状況や単位の取得状況をデータ把握したり、履修カルテとして学びの振り返りをしたりする中で、学修内容の把握を円滑に行うことができた。 ・「情報処理法」の授業では、単にICT機器活用のスキルを向上させるだけでなく、今後、保育現場で必ず必要となる個人情報保護や情報セキュリティ、著作権などについても専門的知識をわかりやすく指導した。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーション作りは、「現場への繋がり」でも大切である。 ・ドキュメンテーションは「学びの可視化」である。学びの様子を伝えることができる。保育者も気づきや学びを再確認し、保育現場から保護者へ「育ちを伝える」ということを行う。 ・ドキュメンテーションは日々の保育では、保護者とのコミュニケーションツールになる。専門的な視点でどのように伝えるかが重要である。 ・幼児教育においては、「保育の質」がこれから大切になるが、ドキュメンテーションは「保育の質」にも繋がると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場に出てドキュメンテーションを作ることができるようになったら、保護者としてはわが子の育ちが良くわかるので、(保育者が)「良く見てくださっている。」と感ずることができる。 ・今後は、学んだことを(ドキュメンテーションなど)学院のホームページ上で(個人情報に配慮しながら)公開して紹介していくのもよい。
--	--

○ 重点目標 5 について

重点目標	<p>5. 学生に対する各種支援活動(中途退学者防止や就職支援活動等)の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が、学生の「生活不適應・修学意欲低下」や「学力不振」、「心身耗弱」、「経済的困窮」等の状況を早期に的確に把握し、相談・支援を行い中途退学や休学の未然防止に努める。 ・卒業後の早期離職者が出現しないよう、在学中に個々の適性に応じたきめ細かな就職指導を行う。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が学生と密に関わり、学習面・心理面・生活面の様子を把握するとともに、タイムリーできめ細かな相談に応じることができるよう、学級担任制度を設け、丁寧に個々への対応を行うよう心掛けた。 ・学生の状況や課題等を常に教員全体で情報共有するために、毎朝、授業前に職員朝礼を行い教員が一丸となって学生の対応ができる体制を構築している。 ・学生の抱える課題の状況に応じては、保護者とも連携し、学生本人だけで課題を抱え込んで悩むことがないようにサポートしている。そのような中で、保護者が大変協力的で、学校と一丸となって学生本人に声掛けを続け寄り添っていった結果、課題解決に向かっていった事例もあった。このことから「成人年齢」とはいうものの、ケースバイケースで本人だけでなく、保護者にも情報共有し早期に対応していく必要もありその見極めが必要である。 ・資格取得だけに限らず、学生が各自の将来像や職業観を明確にもって教育、保育、福祉等の各現場に就職できるよう支援している。また、就職担当教員が中心となり、本人の強み・弱みを生かした職場に就職できるようにきめ細かにアドバイスをしたり迅速な対応を行ったりすることで、学生が安心して就職できるように支援している。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・(場合によっては)学生への支援に保護者も関わっているということは、パートナーとして「目線を合わせておく」と言うことでも大切なことだと思う。 ・(相談事があった場合)親として、自分から学校に相談してもよいのか・・・と迷うときもある。「親からの相談」はどこにしたらよいのかなと悩む時がある。 ・(わざわざ対面でなくても)パソコンなどオンラインで相談できないかと感じたこともある。 ・保護者対象のアンケートは、実施していないのか。 ・学生の課題については、良いことも悪いことも保護者と連絡を取りあって連携していけるとよい。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

評価	<ul style="list-style-type: none">・学校法人白藤学園の開学者である越智宣哲先生による建学の精神「敬身・敬学・敬事」を基本とし、人格的・知的・情緒的に優れた幼児教育者及び児童福祉従事者を養成することを目指す。開講科目の70%以上を演習・実習科目として設定し、必要な専門的知識と技能を在学2年間で修得する。・上記事項は、学則、学生便覧、学校案内パンフレット等各種広報誌、学院ホームページに記載しており、学外への公表、本学教職員や法人役員に対しても公表している。・教育目標を達成するため、少人数制による教育、幼稚園・保育所・こども園・福祉施設との連携を密にした実習指導に取り組んでいる。また、公営ホール（なら100年会館）における効果発表会などを通して、学生がそれぞれの目標を持って活動できるような実践的取り組みを実施している。・令和5年度卒業生は、卒業資格100%、幼稚園教諭二種免許状取得率98%、保育士資格取得率100%であり、就職希望者の就職率は、100%であった。
学校側の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・社会人として通用するための言葉遣い、礼儀正しさ、服装、誠実・勤勉さなどがしっかり身に付くよう、様々な場面を通じて教員全体で指導を行うとともに、1回生は「学びとキャリア」、2回生は「教職実践演習」の授業の中にカリキュラムとして位置づけ、計画的に指導した。・少人数であることを生かして、本学の教員は指導が手厚く、身近に相談できるなど距離が適切であるといった学生からの意見がある。・教員が一丸となって学生に対して「幼児教育に熱い眼差しをもって講義や実習を確実に受け、即現場で実践できる力を身に付けることの大切さ」を伝えている。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none">・マナーは大切。(今の学生は)スマートフォンで何でもやっているのので、電話の掛け方やマナーについて「マナー教室」をやっていただくことは大切である。

2 学校運営

評価	<ul style="list-style-type: none">・学園の目標に基づき、学校運営方針を明確に定めている。学校運営方針は年度当初に明示し、職員間で周知されている。また、必要な諸規程も整備できている。・運営組織や意思決定機能は、学園運営組織表・校務分掌で定めており、組織の構成員・職務分掌と責任を明確にしている。・領域に対応出来る教員の確保については、設置基準等の定めるところを遵守し、必要人員を配置している。処遇等については、学園全体として「目標管理制度」を実施し、その結果に基づき人事考課を行って
----	---

	<p>いる。人事考課の結果は、翌年度の賞与支給に反映させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な学生管理を行うため、学生管理システムとして BLEND を導入している。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学園内の施設予約・管理・他部署との情報共有と確認作業が適時行えるシステムを導入し、業務の効率化に繋げている。また、Wi-Fi 環境の充実を図り、講義にインターネット環境を使用する場合もスムーズに指導が出来ている。 ・教員に対しては、年度当初に学習指導や学校運営、自己啓発等の項目を示すとともに、自身に対して学園目標を踏まえた自己目標を掲げ、目標に対する具体的取組や取組状況、達成状況等について都度面談を行い、評価を行っている。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が心も体も充実していないと（何事も）うまくいかない。

3 教育活動

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標・育成人材像は、本学に対応する人材ニーズに正しく方向付けられており、適正な内容で定められている。 ・カリキュラムは、文部科学省及び厚生労働省の通知に基づき目標達成に向けて体系的に編成されるよう、監督官庁のシラバスモデルに基づき適正な対応を行っている。 ・目標とする資格はカリキュラム上で明確に定めており、幼稚園免許・保育士資格取得を支援する教育内容となっている。 ・成績評価・単位認定の基準は学則に明記しており、その内容に則った成績評価・単位認定の方法及び基準を各教科のシラバスに記載している。また、実践力向上のため、関係科目における担当者間の情報交換を行い、適切に対応している。 ・常勤・非常勤ともに、教員の採用時には履歴書及び教育研究業績書の提出を義務付けて、文部科学省による資格審査に合格し、育成目標に向けた授業を行うことができる教員を確保している。更に学会や研究発表、研究紀要の執筆等を奨励していく。 ・授業を客観的に評価・分析することを目的として学生による授業評価アンケート（W e b）を実施している。アンケートの集計結果は各教科担当教員へ報告し、授業改善を促すとともに学校関係者評価委員会においても報告している。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先で保育者への志望意識を涵養できるよう、学校での実習事前事後指導にも力を注ぎ力量を身に付けさせている。例えば、実習終了後には「実習報告会」を1回生、2回生合同で実施し、互いの情報共有や意欲の向上に繋げた。 ・授業評価アンケートは、W e bアンケート方式で実施した。その結果データをもとに、各担当教員にフィードバックし、教員の授業力向上にも活用するようにしている。 ・研究活動については、発表や研究紀要（第21号発刊）への投稿によ

	り、各教員がしっかりと取り組むようにしている。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に問題なく取り組んでいることが分かった。 ・(アンケート結果をフィードバックすることで) 授業者も励みになっているのではないかと。

4 学修成果

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格に関しては、取得率の向上に努めており、取得者数とその推移に関する情報は明確に把握している。 ・就職率については、その推移に関する情報を把握しており、求人情報は紙媒体だけでなく、カテゴリ別に整理してデータベース化し、学生が必要な情報をタイムリーに検索できるようにしている。 ・担任制をとり、学級担任と副担任が連携して個々の学生の相談及び指導にあたっている。各授業の様子や欠課時数については教務を中心に、常勤・非常勤すべての教員間で共有し、連絡を密にとる体制を整えている。 ・在学生については、実習やボランティア活動等を通じての各現場からの評価を把握している。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の法的な位置づけが変更されたのに伴い、学生の学外でのボランティア活動等についても学外からの依頼も少しずつ増えてきている。(学生消防団員やフェスタ等での幼児預かりボランティアなど) 今後も継続して学院としても積極的な活動支援を行っていく必要がある。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・養成校として現場での実践力を身に付けるために、実習科目等の指導内容の充実に力を入れるようにしている。 ・今年度より、奈良県委託の職業訓練事業の受講生も入校したので、1回生の早い時期から就職指導も開始し、意欲的に就職活動に取り組めるように意識付けしている。 ・新型コロナウイルス感染症の法の位置づけの変更もあり、就職を希望する学生の園見学や就職説明会も順調に行われ、学生の希望や状況を鑑みながら、それぞれが就職活動を行うことができた。また、就職担当教員を中心に就職の模擬面接の練習や自己アピールの仕方、履歴書の記載方法や内容などきめ細かに指導を行うことができた。2月末現在で卒業生50名に対し438件の求人があった。 ・コロナ禍による施設側からの「外部者の訪問規制」も解除されてきたので、学生の実習先巡回訪問は、今後も継続して行い、実習がスムーズに実施できるようサポートしていく。 ・令和5年度の効果発表会は、「保育基礎ゼミ」「保育専門ゼミ」での学びの発表の場と学園創立130周年、学院創立70周年記念行事として、系列の3園の園児も一緒に舞台発表を行い、学園全体で取り組むことができた。 ・入場者の人数制限を解除したので、第1部の劇遊びやオペレッタの発表には学院生の保護者だけでなく系列の3園の園児の保護者や祖父母

	<p>の皆さんなどが多数参加して発表会を参観して下さった。(第1部参加者：834名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2部の記念講演と対談には、慶應義塾大学教授 中室牧子氏とせんりひじり学園理事長 安達譲氏を招聘し「これからを生きる『子どもたちにとって必要な力』とは？」をテーマに「質の高い幼児教育の重要性」や「非認知能力とは」について参加者とともに学びを深めた。(第2部参加者：441名)
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 学習に全力投球で取り組む姿が見られたが、「3年課程」という方向を考えることはどうか。 限られた時間の中で、「専門学校らしさ」を発揮してもらいたい。

5 学生支援

評価	<ul style="list-style-type: none"> 学生の就職指導に関する体制を整備し、就職・成績・生活面等、随時個人面談を実施している。また、成績不振学生の保護者には督促文書の送付や担任面談を実施した。「その他の指導」または配慮を要する学生の保護者にも必要に応じて連絡や面談を実施している。面談結果は、その都度文書に残し、情報共有及び保管している。 学費に関する支援体制は、奨学金制度、学費分納制度、緊急時貸与制度を整備している。奨学金制度は、日本学生支援機構を利用している。 学生の健康管理体制は、学園共有の保健室に養護教諭が常駐しており、学院の教員と連携しながら対応している。学院内にも簡易なベッドを準備し、短時間の安静で回復できる場合は教員等が付き添いながら健康観察を行っている。 卒業生への支援体制は、同窓会組織があり、定期的に総会や役員、幹事会を開催し情報共有している。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> 学生管理システムとして取り入れている BLEND の他に Google classroom を活用して、授業の時間中だけでなく、課題の提示や提出日々の学生への連絡等にも活用している。 少人数を生かして、個々の学生の体調管理には常に気を付けるようにしている。顔色が優れなかったり、高熱や風症状がみられたりした場合は、早めに声掛けを行い、大事に至らないように教員間で情報共有も行っている。 体調を崩して欠席が長期に続いたり無断欠席が続いたりした場合は、担任から本人や家族に連絡を取り安否確認をするようにし、特に一人暮らしの学生の支援をきめ細かに行うようにしている。 同窓会組織については、本学のホームページを利用して情報を提供したり、同窓会情報・求人も学院から発信できるようにしたりしている。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 学生は、年齢が様々の方と一緒に学んでいる。学生の声を聞くと、リカレント教育で入学してきた社会人の方と一緒に学べることは刺激になり喜んでいるようだ。

6 教育環境

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は全校舎とも耐震基準を満たしており、適切にメンテナンスも実施している。 ・セキュリティ管理は、監視カメラの設置、警備保障との契約、通用口の施錠、侵入防止塀等を設置している。今後も安全管理に関する意識向上に努め、危険及び事故防止に努めていく。 ・大規模地震に対応した消防防災訓練実施マニュアルを学園として作成しており、学園防災避難訓練を定期的実施し、危険物等の管理も徹底している。 ・防災備蓄については、定期的に補充・管理しており、災害への備えを万全にすべく現在も体制を整えている。 ・実習に関しては、学外の関係機関と連携して十分な教育体制を整備しており、事前事後指導を徹底し、指導にあたっている。
<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の管理下で危険な状況が発生した緊急時に、教員が迅速かつ適切な対応を図ることを目的に、年度当初に「学校安全計画」及び本学の「危機管理マニュアル」の内容を全教員で確認し、非常時に備えている。 ・授業回数については、教務が工夫をして規定時間数を確保するよう調整し、その都度「特別時間割」を組むようにしている。 ・以前は、本学の幼稚園への教育実習が2回生の6月と10月実施という非常に遅い時期の実習となっていたことから、早期に就職活動を開始するため、1回生の後期と2回生の6月に幼稚園への教育実習を行うようカリキュラムを変更し、今年度の入学生から実施している。 ・リカレントで入学した社会人や県の職業訓練事業の受講生もいることから、子育てとの両立をスムーズに行うことができるように、平日の遅い時間や土曜日等の補講をできるだけ回避したり、宿泊を伴う施設実習を「通い」でも可能な実習先に変更したりして学生への負担が少なくなるよう配慮している。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在学している社会人の中には子育て中の方もいるはず。その人達が自分の子どもを系列園に預けて学ぶことはできるのか。 ・そのようなことが募集パンフレットにも掲載できたらよい。

7 学生募集と受入れ

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は次年度の入学者獲得に向けて広報活動を継続している。学校案内は志願者や保護者の立場を考慮したわかりやすい内容となっており、問合せや相談への対応は、広報担当教員が適切に行っている。 ・入学者選考は公平性を保つために全教職員が関わり、判定会議の場を設け、筆記試験及び面接の結果を踏まえて総合判定している。志願者数は年度による増減が見込まれるため、少子化や大学・短大志向の影響・高等教育無償化を考慮し、高校訪問・進路相談会等への参加を強化している。
-----------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から奈良県委託事業の職業訓練を受託している。保育士や幼稚園教諭の資格を取得し、専門的な知識や技能を身に付けた実践力のある保育者となるべく高い意識をもった受講生の学ぶ姿は、他の学生への刺激にもなった。 ・学納金は、他の大学・短期大学・専門学校と比べて安価であり、学生・保護者の大きな負担とならないように配慮している。
<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人経験者は学生間でリーダーシップをとり他の学生とも良好な関係を築こうとしており、特に新卒者のロールモデルになっている。 ・進学情報媒体の内容等について、応募実績を検討の上、本学の特徴である就職実績・実習指導・学生との関わり等を積極的にアピールして学生募集に繋げているところである。 ・ホームページを再構築し、閲覧者に本学の学びの特色をよりわかりやすく伝わるような内容にしている。定期的に Google アナリティクス の機能を活用し、閲覧者数や閲覧ページの動向、ニーズなどを確認し、適切な資料をホームページに掲載するようにしている。 ・学生募集や広報活動の際には、今年度から開始している系列内の3園との連携プログラムで学生に資質能力や実践力が確実に身に付いてきているという「手ごたえ」や学生からの声を本学のアピールポイントとして前面に押し出し伝えていくようにしている。 ・高等教育無償化の影響が大きく出てきており、寮に関しては特に遠方からの受験者が減少している。今年度は白梅寮の入寮者は、以前の定員の30名から13名に激減していたが、寮が募集要項の内容を変更された結果、来年度は定員の20名のうち19名が入学予定である。 ・少子化ではあるが、今年度から奈良県の雇用政策課の職業訓練の委託事業を受託を受け、社会人経験者等様々な経験や年齢層の学生が共に学ぶ体制が整ってきた。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数も減っている。ターゲット層を広げていく必要がある。 ・SNS を活用し、「フォローしてね。」と呼びかけフォローの数も増加させていくと募集活動にも繋がる。 ・専門的な仕事に興味をもたせるためには、高等学校では遅い。中学校との「上手な連携」をしていくとよい。求める人を育てることも大切。 ・様々な仕事があることを伝えていければよい。

8 財 務

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・財務基盤は必ずしも安定しているといえず、学園全体の財政基盤を確立させるため、引き続き学生・生徒・園児数の定数を確保していく必要がある。 ・年度予算は、教育の充実と費用効果等を勘案し、適切に編成および執行しており、会計監査人及び監事の監査は、定期的かつ適切に行われている。 ・財務状況の公開については、学園HPにて公開しており、その他必要に応じて開示している。
-----------	--

<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・財務管理は、法人が厳正に行っている。今年度の本学の定員数については現2回生は充足されているが、1回生の入学者数は減少しており学園全体としての財務状況は依然厳しい。教育を取り巻く状況が日々変化していく中、法人の幼稚園・高等学校・保育学院組織が一丸となって対応していく必要がある。 ・入学者数により、学園全体の財政に影響が出るため、定員確保に向けてオープンキャンパスの在り方など今までの方法をさらに見直し、さらに効果的な広報活動の在り方を熟議しているところである。 ・刷新したホームページを有効活用して、閲覧者にとって必要な情報を具体的でわかりやすい内容で発信している。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ナイトオープンキャンパス」も良いと思う。 ・PTAの会合等も夜に行われたりしているところもある。

9 法令等の遵守

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令や設置基準は遵守している。 ・学校が保有する個人情報に関する保護対策及び教職員への周知徹底は出来ている。学生に対しては、SNS等への書き込み・メディア機器を通じた情報流出が社会問題となっていること、特に学外関係機関で知り得た情報を意図の有無に関わらず流出させた場合には、懲戒処分に値する旨を学生便覧へ追記し、その重大さと守秘義務を教授している。 ・平成26年度より学園共通の職場におけるハラスメント防止に関する指針を策定し、相談マニュアルを作成している。 ・自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めている。学校関係者評価委員会にて評価を実施し評価報告書及び評価結果概要を毎年ホームページ上で公開している。 ・教員養成校としての基準を確実に守るようにしている。
<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの使用については、入学時に学生へ同意確認をとっている。実習前には、オリエンテーション及び事前指導において、指導を徹底させている。 ・実習開始2週間前から学生に自己健康チェック表を作成させて、実習先に提出することも実施している。 ・授業時数は教務が確実に調整を完了している。資格取得においても法を遵守しながら申請している。 ・SNSについては実習先での不用意な発信、園児のプライバシー保護も考え、行動するよう指導している。 ・著作権法については、学校がSARTRASに補償金を支払い、著作権の保護に抵触しないように対応している。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(今の時代) コンプライアンスが大切である。

10 社会貢献・地域貢献

評価	<ul style="list-style-type: none">・子育て支援センター・地域の催し参加・出張公演等・ボランティア活動の積極的な参加を促進・奨励している。学生の活動はホームページ等を通じて広く公開している。学校は、社会への情報発信や地域活動の拠点としての役割も担っていることを認識し、活動に取り組んでいる。・学園全体として環境問題への啓蒙活動を実施している。学園周りの花壇の整備や空調の温度管理も実施している。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none">・学園周りの花壇の花植えや幼稚園、保育園、こども園の花植えは、授業の一環として学生が園児と一緒にいった。継続した取組となるように「水やり」等も当番制にして、学生が主体的に活動するようにしている。・今年度からは系列の園だけでなく、地域の催しへの参加依頼も出てきた。例えば、地域の自治会のクリスマス会への参加を依頼されたので学生から参加希望者を募ったところ、積極的に申し出てくれる学生が出てきた。また、クリスマス会での自分たちの出し物や子どもたちの制作物の内容を事前に自分たちで検討、工夫し、当日を迎えた。今後も社会や地域貢献に積極的に取り組んでいけるように計画的に参加を促したい。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none">・「社会貢献」を授業の中の科目に入れているところがあるということも聞いている。・新しい分野で「社会貢献」が認知されることが大切である。・様々なボランティア活動があちらこちらで行われており、違う立場の人の話を聞いて広く繋げていくことが必要である。・学校現場で「総合的な学習の時間」に地域課題を考える・・・というような新しいチャンネルも用いて、さらに認知度を上げるようにしてもらいたい。